

## プラント状況確認結果(令和2年1月28日～令和2年2月4日)

令和2年2月5日  
福島県原子力安全対策課

令和2年1月28日～令和2年2月4日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

### プラント状況(2月4日午前11時)

以下の項目について、実施計画\*に定める制限を超える測定値はありません。

また、県の檜葉町駐在職員が福島第一原子力発電所中央操作室にてプラント状況を確認しています。確認結果はこちら(県HP)を御覧ください。

場所	目的	監視項目*	1号機	2号機	3号機	4号機 <sup>※2</sup>
原子炉 <sup>※1</sup> (核燃料)	冷却	注水量(m <sup>3</sup> /h)	4.2 <sup>※3</sup>	4.2 <sup>※3</sup>	0 <sup>※3</sup>	—
		圧力容器 底部温度(°C)	16.1	19.4	20.1	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	1.13×10 <sup>-3</sup>	検出限界値 未満	検出限界値 未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%)	0.00	0.04	0.14	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	19.6	19.4	18.3	—

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ありません。

※3 3号機燃料デブリ冷却状況確認試験のため、2/3から炉注水を停止しております。それに伴って、1、2号機は、1/31以降注水量を3.0から4.5 m<sup>3</sup>/hに増加させております。

### (1) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(2月4日午前10時)

最小 0.400 (MP-6) ~ 最大 1.251 (MP-4) μSv/h ⇒[計測地点の地図](#)

※MP-2は当該時刻、MP無停電電源装置のリプレース工事により欠測。

### (2) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(2月3日採取分)

最小 検出限界値未満(6号機取水口前、物揚場前、港湾口)

※検出限界値は約0.59、0.49、0.58 Bq/L

~ 最大 3.7(1~4号機取水口内南側) Bq/L

⇒[計測地点の地図](#)

### (3) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(2月3日採取分)

5、6号機放水口北側: 検出限界値未満 ※検出限界値は約0.76 Bq/L

南放水口付近: 0.74 Bq/L

⇒[計測地点の地図](#)

### (4) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果

敷地境界に設置されている連続ダストモニタにより24時間連続で監視しており

ます。測定結果はリアルタイムで公開されていますので、こちら [（東京電力HP）](#) を御覧ください。

(5) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(1月31日採取分)

最小 検出限界値未満 (5、6号機) ※各検出限界値は 5.1、3.8 Bq/L  
～ 最大 1800 (2号機) Bq/L

トラブルの概要 (令和2年1月28日～令和2年2月4日)

この一週間におけるトラブルについて、東京電力から以下のとおり報告を受けました。

■2号機タービン建屋北東エリアにおけるサブドレン運転制限値の逸脱について  
(1月29日発生)

東京電力は午後1時05分に2号機タービン建屋周辺に設置しているサブドレンピット No. 34 に対して、2号機タービン建屋北東エリアの水位が165mm上回っていることを確認しました。このため、午後1時29分、実施計画第1編第26条(建屋に貯留する滞留水)表26-2で定める運転上の制限「2号機タービン建屋の滞留水水位が近傍のサブドレン水の水位を超えないこと」を満足していないと判断しました。応急措置として午後1時32分に1～4号機建屋周辺のサブドレンについて全台汲み上げを停止しました。

- ・2号機タービン建屋北東エリア滞留水水位：608mm(午後1時05分現在)
- ・サブドレンピット No. 34 水位：443mm(午後1時05分現在)

東京電力は2号機タービン建屋北東エリア(以下、「当該エリア」という。)の滞留水水位の状況を確認したところ、1月29日午前5時30分より上昇しており、この時点において近傍のサブドレン水の水位を超えていたことを確認しました。

- ・当該エリア水位：456mm(午前5時30分時点)
- ・サブドレンピット No. 34 水位：369mm(午前5時30分時点)

1月30日午後0時00分、サブドレンピット No. 34 について、当該サブドレンピット水位と当該エリア水位を手測りした結果、塩分補正および手測りによる測定誤差40mmを考慮しても、サブドレンピットの水位が当該エリアの水位を上回ったことを確認しました。

- ・当該エリア水位：608mm(1月30日午後0時00分)
- ・サブドレンピット No. 34 水位：777mm(1月30日午後0時00分)

東京電力は2月3日午後3時46分、当該エリアの建屋滞留水移送が完了したことから、実施計画第1編第26条(建屋に貯留する滞留水)表26-2で定める運転上の制限「2号機タービン建屋の滞留水水位が近傍のサブドレン水の水位を超えないこと」について午後4時47分に運転上の制限から復帰を判断しました。今後、準備が整い次第、サブドレンの汲み上げを再開します。

詳しくはこちら [\(1\) \(2\) \(3\) \(4\) \(5\) \(6\) \(7\)](#) をご覧ください。

## \* 実施計画及び監視項目に関する解説

### ○実施計画

正式名称は「福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画」。東京電力の廃炉の取組（設備設置含む）について、原子力規制庁が安全性の審査を行い認可したもので、事業者の安全上守るべき基準値等が示されています。

### ○注水量及び圧力容器底部温度

1～3号機の原子炉格納容器内に存在する溶け落ちた燃料（燃料デブリ）を冷却するため、継続的な注水を行っています。実施計画では原子炉圧力容器の底部温度を80℃以下で管理することを定めています。

### ○キセノン 135 濃度

キセノン 135 はウランが核分裂する過程で生じる放射性物質であり、量によってどの程度核分裂が起きているか推定することができます。実施計画では1 Bq/cm<sup>3</sup>以下であることが定められています。

### ○窒素充填及び水素濃度

水素爆発防止を目的に、原子炉内の水素濃度を測定し、実施計画に定める制限値（2.5%）よりも低いことを確認しています。1～3号機では、原子炉格納容器に窒素を注入することにより水素や酸素の濃度を下げています。

### ○水温

使用済燃料プールの水を循環冷却することにより、プール水温を管理しています。なお、実施計画では60℃（1号機）または65℃（2、3号機）以下で管理することが定められています。

（お問い合わせ 024-521-7255）